


歯科口腔保健対策部会の開催状況等

開催日	令和8年1月19日(月)
構成員等	歯科口腔保健対策部会長：愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座 嶋崎義浩主任教授 始め14名 学識経験者、県医師会、県歯科医師会、県歯科衛生士会、県看護協会、県栄養士会、全国健康保険協会愛知支部、県老人福祉施設協議会、県知的障害者福祉協会、市町村歯科医師・歯科衛生士代表、小・中学校養護教諭代表、県保健所長会(順不同)
協議事項及び検討状況等	<p>協議事項 「第2期愛知県歯科口腔保健基本計画」の主な取組について</p> <p>計画の取組状況(資料3-2)、歯科口腔保健対策に係る課題等について協議した。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康に関する啓発に関して、若い世代に対するアプローチは課題である。県歯科医師会への委託事業で、専門学校と連携して学生が作成した動画のように、新しい感覚で取り組む必要性を感じている。 ○若い世代への啓発には、情報を分かりやすく伝えるためLINEやInstagram、YouTubeなどSNSの活用が重要になってくる。 ○幼児期から歯科保健行動を習慣にすることで、若い世代も歯科受診しやすくなる。そのためには親が習慣とすることが必要である。ライフコースアプローチの考えにより、その年代の情報だけを伝えるのではなく、その前から常に情報発信していくことが重要。 ○保健指導を実施する中、多職種で連携することで気づく視点があると実感した。多職種連携を進めていく必要がある。 ○障害者入所施設においては入所者の高齢化が進んでおり、食べる力、飲み込む力が弱くなっている方が多いことから、誤嚥が課題である。 ○県内で外国籍のこどもが増えてきており、歯科保健についての説明に苦慮することがある。特に、口腔機能については説明が難しいと感じる。言語がなくても絵を見て理解できる媒体があると良い。 ○フッ化物洗口の実施率は、保育園等では新型コロナウイルス発生前の水準にほぼ戻っているが、小学校ではいくつかの市町村において戻っていない。むし歯は減ったからフッ化物洗口をしなくても良いのではないかと、という意見も聞かれるが、フッ化物洗口を続けることによって健康な状態を維持していくことが重要である。 <p>● 若い世代からの口腔ケア推進事業(愛知県歯科医師会委託) 高校卒業後も定期的な歯科健診の受診を促すため、必要な啓発活動や研修を実施する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科健診啓発動画「セルフケア、プロケアで、強い歯へ」の作成・公開(学校法人日本教育財団 HAL 名古屋との官学連携) ○ 口腔ケア推進研修(学校関係者向け)… 1回(※参考 昨年度受講者:45人) </div> 
今後の取組の方向性	「第2期歯科口腔保健基本計画」に基づき、引き続き、関係機関・団体と連携し、取組を進める。